

粕谷和夫。5月末から6月初め頃は高尾山では野生ランが開花します。見事なのはセッコクですが、この写真はヨウラクランという蘭です。5月27日小仏川の梅ノ木の幹について開花していました。このランは、複数の茎が寄り集まるように出て下向きに垂れます。ごく小さな花が多数着き個々の花は輪生状です。瓔珞（インドで貴族が身に付ける装身具の意味）

# 紅葉台



# 新聞

第137号

2024年

7月6日

発行人：関谷 孝

## まちの駅 八王子ちとせや



2022年6月12日にオープンした八王子のアンテナショップ「八王子ちとせや」が夢美術館の真向いにあるのをご存知でしょうか。多摩信用金庫八王子中央支店の1階にあります。（八王子駅から徒歩約15分）営業時間は、午前10時から午後5時。定休日は月曜日・第一火曜日・祝日・年末年始。



副題に『これまでもこれからも千年続くまちの物語』とあり、サステナブル（持続可能）で地域に末永く根差す場所との願いを込めた折鶴がロゴになっています。以前「\*八王子国の歩き方」で中野智行さんが紹介していましたので是非紹介したいと思っていました。

「\*八王子国の歩き方」は中野さんの軽妙で独特の語りが魅力です。八王子愛にあふれています！とても素晴らしいので是非見てほしいです！！（\*は、YouTubeで見ることが出来ます。検索して見てください）

HPによると「まちの駅八王子 CHITOSEYA (ちとせや)」は、八王子の生産者・地場産業などを紹介し、世代を超えた出会いとつながりを生み出す、暮らしづくりの新しい拠点です。八王子で採れた旬の野菜、加工品等の量り売りや、エシカルな生活雑貨の販売を行うほか、地元の食材を使った味噌汁やおむすび等を提供するカフェも営業します。また、暮らしを豊かにするイベント・ワークショップの開催や地域の情報発信も行います。「まち・ひと・もの」が結びつき、楽しみながら地域と環境を思いやることのできる暮らしを提案していきます。ぜひお越しください。と紹介しています。



どんなところか実際に行ってみました。ランチは写真のように八王子産の体にいい食材を使っています。1000円。（飲み物付きは1200円）以前紅葉台新聞で紹介した一汁一菜です。大きなお椀には、具沢山の味噌汁がたっぷり。とてもおいしく体が温まりました。また、書籍もたくさんありました。ここも居心地のいい場所です。最近「ちとせや手帖」を発刊し、昔ながらの専門店を紹介しています。「八王子の甲州街道沿いに



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

は美味しい逸品や暮らしの技を教えてくださいませんか」と。八王子の魅力再発見です！

そうそう、余談ですが、ちとせ屋さんの向かいにはあの有名なユージンの実家「荒井呉服店」がありますよ。窓側に座ってランチをしながら、甲州街道を眺めるのもなかなかいいですよ。

## 粕谷和夫の観察日記



群馬県沼田市北部に位置する「玉原高原」の**ブナ林**です。ここは関東でも有数のブナの森として知られています。昨年に引き続き今年も5月16日にここを訪れました。

この写真のように霧に覆われた新緑のブナ林の中でキビタキ、ウグイス、コルリなどのさえずりがこ心地よく聞こえてきました。

群馬県沼田市北部の玉原高原の下には玉原湿原があります。ここは木道の遊歩道が整備されていて、とても歩きやすいです。紅紫色のムラサキヤシオツツジの花が目鮮やか、これと対照的なのが湿原に咲く純白の妖精・**タムシバ**でした。



渡良瀬遊水地の人口塔の巣で営巣しているコウノトリ親子を堤防から観察していると、キジ、オオヨシキリ、ヒバリなどが観察されました。少し遠くからカッコウの声が聞こえてきました。この写真の上は数が多く、にぎやかに囀っている**オオヨシキリ**、下は最近数が減ってしまった**ヒバリ**です。近くの田んぼで大規模に栽培されている麦が収穫期を迎え、麦秋となっていました。ヒバリはこの麦畑で営巣したと思われる。

## みんなの居場所 わたぼうし



八王子駅南口 ジェイコムのタワービル前。西村ビルの2階に「わたぼうし」という名前みんなの憩いの場所があります（徒歩2分）。



4階には子安あんしん相談センターがあります。困ったことや相談したいことがありましたら誰でも気軽にすることが出来ます。ここでは、お茶も飲めます。ドリンクは1000円。

（開店日 火～土 10時から16時）

